

坂の上通信

平成29年十一月二十二日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文化部(四〇三演習室)

美高生よ灯火親しむべし

「灯火親しむべし」とは「涼しく夜の長い秋は、灯火の下での読書に適している。(だから本を読もう)」の意。今号は読書特集である。
美高生の夏休み課題の定番「読書体験記」だが、「全国高校生読書体験記コンクール」に応募したところ、今年は一二年2組の濱本果歩さんの作品が広島県代表(五編)の一つに選ばれた。ここに全文を掲載する。

大切な人を失うことが、どれほど辛いものか。は分かっているつもりだ。そして、大切な人がいなくなるというのは、その人の全てが無くなる訳ではないと、この本で私は気付かされた。
私には祖父がいた。亡くなった母方の祖母と、父方の祖父は、いつも私に優しくしてくれていた。今でも、公園で遊んでくれたことや、水族館に連れて行ってくれたこと、ご飯を一緒に食べたことはちゃんと覚えている。
二人が亡くなったのは、数年前のことだった。父方の祖父も、母方の祖母も、私が小学生の時だった。とても

早いと思った。どちらとも、数月前までとはとても元気で、まさかこんなことになるなんて、きつとも思わなかった。たと思う。ドラマや映画のように、生き返った！みたいな凄いな奇跡が起きたらいいのに、何度も願った。でも、そんなこと起きるわけなかった。
この本の主人公も、病気で大切な人を失ってしまった。主人公は、同じくフスマイトになった子のお見舞いに行くことになってしまった。一度も会ったことのない子で、学校もずっと来ていない。けれど、「お見舞い」は主人公にとって大切な時間になっていく。

学校の「顔」にインタビュー



今回は英語科の松本先生にお話を伺った。英語の先生になろうと決めたきっかけは、お菓子やパン作りが好きだったので、栄養士になって病院や小学

校で働こうと思っただけです。ですが目標が変わり、航空会社への就職を目指して大学は英文科で学びました。最初は教員志望ではなかったのです。

その大学時代に教員免許も取得しておこうと考え、教育実習を行いました。その楽しさが、英語の先生を目指したきっかけですね。

美高生に一言
人生が変わるきっかけは、その時にはわかりませんが、出会いを大切に、今できることを精一杯頑張ります。

読書体験記コンクールとは

公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会が、毎年実施しているコンクール。高校生が読書体験記をコンクールに投稿し、その中から優秀な作品を選出する。今年度は全国から403校の参加と、112576編の応募があった。

この「君は月夜に光り輝く」という本を手に取ったきっかけは、本屋さんに行った時に、おすすりコーナーの棚に積んであったのを見て、興味を引かれました。
この本の魅力や面白味はなんですか。
人の気持ちの描写がとても上手く書かれていて、読みやすいので、

その不安は、現実と違ってしまった。
今はもう落ち着いたが、祖父が亡くなった時はかなりショックだった。泣いた。泣いてもどうにもならないけど、涙が止まらなかったのだ。死んだ顔を見ても、ただ寝ているだけのように思えて、実感がわかなかったのに、涙だけは出続けた。
公園で遊んだことも、一緒にご飯を食べたことも、水族館に連れて行ってくれたことも、声も、優しさも、全部亡くなったことで、今までのことが、まるで嘘だったかのように思えた。写真を見ればたしかに写っているのだ。笑顔をこちらに向けている姿が。けれど、何かが違う気がした。もう写真を見て、この時はこうだったねとか、あの時はあんな事があったねとか、そんな会話はできないのだ。

もういらないのに、一緒にいるという気持ちで遊園地に行った主人公。私は今まで自分が考えていたことが間違っていたかと思った。
ちゃんと私に残っている、確かな記憶。それは、決して消えないものだ。心の中で、記憶の中で、何度だって祖父と会える。それが現実ではないと分かっているけど、やはりあの二人に会えるのは私にとって嬉しいことだ。亡くなってしまったけれど、その人の全てがなくなるなんて、そんなことはなかった。祖父のあの優しさは私を勇気づけてくれる。あの頃の、小学生の頃の私に言いたい。「おばあちゃんも、おじいちゃんも、全てがなくなってしまうわ

濱本さんの話



本を読まない人にもおすすめです。
今回の選考を受けて、まさかこんな結果になるとは思っていなかった。そこで描かれています。
いま朝の読書で読んでいる本は何ですか。
七月隆文という作家の「ぼくは明日、昨日のきみとデートする」という小説です。

美高図書室で図書交流会

今年19日の日曜日、美高の図書室に広島の高校8校の図書委員が集まり、図書交流会が開かれた。各校の図書委員が作った本のPOPを発表したり、その本の紹介をするゲーム「作者かるた」を楽しんだり、和やかな雰囲気の中で行われた。各校の取組について交流したが、一番の問題は、図書室を利用する人が非常に少ないというところだ。



【取り上げた書名】
君は月夜に光り輝く

【作者】
佐野徹夜

【出版社】
アスキー・メディア

ワークス



手作りの本のPOP

美・鈴・鈴・鈴

本に関わる豆知識を一つ。17世紀後半、イギリスで流行した装幀技術の一つに、「小口絵」というものがある。小口とは、本棚に並べた時に見える背表紙とは反対側の箇所のことだ。そこに描かれている絵のことを小口絵と言います。▼本を開き、小口を斜めにずらさなければ見ることができない。中には半分ずつ、二種類の絵が描かれているものもある。電子書籍にはできない、紙のアートである。▼さて現代では、読書は不安やストレス解消にも繋がると言われている。イギリスの大学での研究によると、ストレスはゲームで21%、散歩で42%ほど解消されるそう。さらに読書では、たった6分間で68%もストレス解消効果があると実証された。ただし難しいと感じる本は避ける必要がある。そうだが、▼美高でも朝読を取り入れ、本に触れる時間を作っている。10分でストレス解消・国語力の向上などの効果があるので、積極的に取り組むたい。(廣岡琴美)

編集後記

今号は読書体験記を掲載した。我こそはと思う人は、来年頑張っでは如何だろうか。